

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	令和6年度松阪市健康づくり推進協議会
2. 開 催 日 時	令和6年7月11日(木)午後1時 30 分～午後 3 時 00 分
3. 開 催 場 所	松阪市健康センターはるる 3階健康増進室
4. 出席者氏名	(委員)◎平岡直人、○長井雅彦、中村文彦、小泉かつ子、岸江伸浩、 森優太、松澤和美、大西学 (◎会長、○副会長) (顧問)堀康太郎 (事務局) 健康づくり課:糸川、田島、西口、蒲原、大西、梶間、稲垣、加藤、 中野、安保、後藤、橋本 各地域振興局:野口、山地、野口、鈴木、谷口、小林、上阪 (オンライン)
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 名
7. 担 当	松阪市健康福祉部健康づくり課 電話 0598-31-1212 FAX 0598-26-0201 e-mail ken.div@city.matsusaka.mie.jp

事項

1. 委嘱状・辞令の交付
2. 挨拶
3. 委員自己紹介
4. 会長、副会長選出

協議事項

- (1)令和5年度健康づくり推進事業実績報告について
- (2)令和6年度健康づくり事業実施計画について

5. その他

議事録 別紙

令和6年度松阪市健康づくり推進協議会議事録

日時：令和6年7月11日（木）13:30～15:00

場所：健康センターはるる3階健康増進室

出席者：

（委員）◎平岡直人、長井雅彦、中村文彦、小泉かつ子、岸江伸浩、森優太、
松澤和美、大西学（◎会長）

（顧問）堀康太郎

（事務局）糸川、田島、西口、蒲原、大西、梶間、稲垣、加藤、中野、安保、後藤、
橋本

（各地域振興局:オンライン）：野口、山地、野口、鈴木、谷口、小林、上阪

欠席者：駒田聡子

傍聴者：0名

配布資料：

- ・松阪市健康づくり推進協議会事項書
- ・健康づくり推進協議会委員名簿
- ・松阪市健康づくり推進協議会規則
- ・令和6年度松阪市健康づくり推進事業 冊子
- ・資料1 「健康応援プロジェクト」
- ・資料2-1 「健康マイレージ」
- ・資料2-2 「ヘルスアプリSOULA pie」
- ・資料3 「松阪を 歩こっ♪ウォーキングスタンプラリー」
- ・令和5年度松阪市保健統計報告書
- ・松阪市健康カルテ
- ・ウォーキングコース3選【リーフレット】
- ・第3次松阪市健康づくり計画～みんなが自分らしく輝く健康なまち～【冊子】
- ・第3次松阪市健康づくり計画【ダイジェスト】

議事要旨：

1. 開会

審議会等会議の公開に関する指針及び運用方針、会議の公開基準に基づき、会議を公開するものとし、会議の状況を録音、会議録の公開を行うことを説明。資料の確認。委員の出席報告（出席者：委員8名、顧問1名 欠席者：1名）

2. 委嘱状・辞令の交付

副市長挨拶

昨年度は本協議会の皆様方から貴重なご意見、ご提案をいただきまして、第3次

松阪市健康づくり計画を策定することができました。改めて感謝と御礼を申し上げます。いよいよ、第3次計画が本年度から令和11年度までの6年間を推進期間として開始しました。基本理念の、「みんなが自分らしく輝く健康なまちの実現に向け、健康づくりの推進と生活習慣病の予防と重症化予防、ライフステージ別の課題に応じた取り組み、自然に健康になれるまち」、この3つの基本方針に沿った取り組みを進めているところでございます。これまでも増して、関係機関、団体、学校、住民協議会などの皆様との連携を強化させていただくとともに、食生活改善推進員やウォーキングサポーター、地域の健康づくりなどにご活躍のボランティアのみなさまのお力添えをいただき、市民のみなさまの健康づくりへ、より一層取り組んでまいります。委員のみなさまには忌憚のないご意見をいただきますようお願いを申し上げます。

3. 委員自己紹介（各委員から自己紹介）

4. 会長・副会長選出

会長、副会長につきましては規則第5条に規定しております委員の皆様より選出。会長に松阪地区医師会副会長の平岡直人様、副会長に松阪地区歯科医師会会長の長井雅彦様。

5. 協議事項

(1) 令和5年度健康づくり推進事業実績報告について

事務局より、令和6年度松阪市健康づくり推進事業冊子に基づき「令和5年度健康づくり推進事業実績 第1節、第2節、第6節」を報告。

会長：事務局から説明がありました、第1節、第2節、そして第6節について、ご意見、ご質問等、ございませんか。

委員：新型コロナウイルスが5類となり、変化はありましたか。

事務局：イベントができるようになり、昨年度は健康づくりフェスティバルを開催させていただきました。たくさん関係機関の皆様にご協力いただいて、3,500人の方にご参加いただきました。

各種健康増進事業では、毎週火曜日に開催している「はるる元気朝一体操」は屋外で15分だけということで、コロナ禍時も中止せずに実施していました。朝一体操を開始し、数年が経ちますが、参加者は増えてきている状況です。食生活改善推進員の活動につきましても、感染状況により、調理実習や試食が全くできない状況でしたが、調理実習や試食等が再開し、皆さん、楽しく教室ができるようになってきているような状況です。

また、がん検診につきましても、受診率が一時期、かなり下がりましたが、横ばいからやや増加しています。しかし、令和元年度の受診率までは

戻っていない状況です。

事務局：第4節の感染症予防事業について事務局から説明。

会長：第4節について、ご意見、ご質問等、ございませんか。

顧問：新型コロナウイルスワクチンについて、令和6年度の状況はまだ、国から通知がない状況。ワクチン接種の費用、自己負担などについて知りたい。市の予定を知りたい。

事務局：令和5年度までは全額公費負担でした。令和6年度については、定期予防接種（B類）ということで、高齢者（65歳以上）の方と重篤化する疾病をお持ちの60歳から64歳の方については、一部公費助成。自己負担金額は3,000円。それ以外の方については、全額自己負担にて接種を想定しています。

委員：国からの助成金も今年度だけの予定であり、令和7年度は分からない状況。60歳以上の基礎疾患がある方が対象であり、60歳未満の重篤な基礎疾患のある方については補助の対象にならないという理解でよいのか。

委員：費用対効果の面から、ワクチンというのは効果が高い方策であろうと思われる。带状疱疹ワクチンについても、他市町村では、すでに助成しているところもあるということ。また、ご検討いただきたらと思う。

会長：その他として、保健統計報告書についても説明をお願いします。

事務局：令和5年度保健統計報告書について、事務局より説明

会長：追加で説明はございませんか。顧問、よろしくをお願いします。

顧問：死因別死亡数ですが、この地域では心疾患の順位が第2位になっていますが三重県を見ると、老衰が第2位であり、多分、10年ぐらいたら、この地区も同じような順位に心疾患を抜いて、老衰が増えてくる状態になると思う。しかし、死亡診断書の書き方によって、死因がものすごく大きく変わってくるため、そのあたりを考えながら、見ていく必要があるとは思いますが。

「新型コロナウイルス感染症」による年齢調整死亡率の比較についてどのようなことを示唆するようなデータなのか。わかることがあれば、その範囲で回答をお願いしたい。

事務局：呼吸器疾患が「その他の呼吸器系の疾患」と「肺炎」とに分かれて死因順位上位にあります。5位と6位を合わせると、呼吸器疾患がかなり上位を占めてくるかと思えます。年齢調整の死亡率を見ると、市の心疾患は三重県と比べて悪いような状況です。「新型コロナウイルス感染症」による年齢調整死亡率が三重県ホームページに掲載されておりましたので引用、掲載させていただいております。厚生労働省のオープンデータを見ますと、三重県の死亡数が1,071名になっていました。この年齢調整死亡率が527人でオープンデータとこの人口動態と違う。亡くなられた方が、令和4年が一番多かったような状況となっています。

委員 : 心疾患が三重県に比べてこの地域が多いということだが、三重県自体が全国平均に比べて多い。死亡率が高い原因の1つは糖尿病、高血圧、高脂血症の患者が多いこと。外来通院患者も多く、高血圧症や高脂血症は比較的、治療によって保たれているが、うまくいっていないのが糖尿病である。コントロールが不十分であることが既に三重県の特徴としてある。そのなかでも、この地域がさらに悪いということですので、そのあたりは今後、やはり改善していく、注目すべき点かと考えている。

会長 : ひとくちに心疾患と言っても、さまざまな心疾患があり、慢性心不全という病態があるが、人口の高齢化に伴い、慢性心不全の患者は当然増えていく。それを「心不全パンデミック」と言ったりする。例えば、死亡診断書に「急性心不全」という書き方をすると本来の病名とは異なるようなところがあり、先ほど、保健所長が言われたように診断書の書き方の言葉によっても、統計上の影響が出てくる。

顧問 : 診断書に関しては、ひと昔前は全部、老衰も心不全としてきた経過があり、増えてきたという背景がある。三重県で虚血性心疾患が多いというのはそういうことです。

委員 : 出生数をいかに上げていくかということも課題ではないかと思う。松阪市としては子育てへの助成やマッチング等も市をあげて取り組んでいたかと思うが、その効果はどうか教えてほしい。

事務局 : 令和4年度の出生数は945人でした。年々、減少していく状況です。今年度、こども家庭センターが設置され、今後、「こども応援係」が少子化対策のいろいろな取り組みを計画しています。

委員 : 少子化の問題と若者の地域離れについて、地域に若者を引き留めるための取り組み、受け皿が必要。企業の地域貢献として、健康づくりや離職率を下げる施策を行い、地域での働きやすさを向上させることが重要と思うが、地域内の求人が少ないため高校卒業後に都市部へ流出し、地域が若者を引き止める魅力を提供できていない。また、出生率の低さについては、若者の間で結婚や子育てが魅力的でなくなっている現状がある。全国的に同じような状況かと思われる。

(2) 令和6年度健康づくり推進事業実施計画について

事務局より、令和6年度松阪市健康づくり推進事業冊子に基づき「令和6年度健康づくり推進事業実施計画について説明。

会長 : 事務局より説明のあった実施計画について、ご意見、ご質問等はございませんか。

委員 : 健康づくり推進事業のデータ分析に基づく保健活動の展開について、健康データを住民の方へ提示したり、ホームページへの掲載を「健康カルテ」という形で作成することは非常に重要な側面だと感じた。人と比べて歩く速度が

遅い方が多く、三重県と比べると「多い」という結果を市民の方が「健康カルテ」で見た際に「よし、運動しなくては。」というモチベーションにも繋がるのではないか。実際に各事業団体や市民の方からのコメントや感想があれば教えていただきたい。

事務局：健康カルテの作成を開始し、今年で3年目になります。地域の方々に各地区担当保健師から、お伝えさせていただいています。とても好評で、喜んでいただいています。ご自身のお住まいの地区ごとにまとめさせていただいておりますので、自分ごととして捉えていただくことにも繋がっているように感じています。また、地域包括支援センターの方からも、資料を活用させていただきたいとお声もいただいております。市民の皆さまだけでなく、関係機関の方々とも共有し、活動が広がりつつあります。

顧問：企業の健康診断結果をもとにしたデータを企業から希望があった場合には、企業別の健康カルテはできるのか。

事務局：この健康カルテの元データは、国民健康保険加入者と後期高齢者保険加入者の健康診査結果データをKDBシステム（国保連合会システム）から抽出していますので、健保組合加入者の方等は保険加入別にあるデータシステムになるかと思えます。

委員：「糖尿病性腎症重症化予防事業」「CKD」について、薬剤師会でも松阪済生会病院石川医師とタイアップし、啓発事業に取り組んでいる。

事務局：令和5年度CKD予防事業についてですが、対象者の方60名の方に受診勧奨通知を石川医師から提供いただいた「CKD予防パンフレット」と対象者60名に送付し、保健指導を希望された1名に対応させていただきました。

委員：松阪地区薬剤師会各薬局でも場合によっては健康教室も開催している。タイアップできるようなことがあれば是非とも声かけいただきたい。

委員：年代別の検診の受診率が若い世代で非常に低いですが、この原因はどのようにとらえているか。

事務局：この結果は、国民健康保険加入者と後期高齢者保険加入者となりますので若い世代は加入割合も低い状況になっています。

健（検）診を受診しない理由は市民アンケートなどでは「忙しい。面倒くさい。悪くなったら病院に行けばいい。自分は健康だから。」との回答でした。

委員：実際には難しいことかと思うが、例えば、都会のように日曜日に検診を実施したり、開設する医療機関もあつたりするので休日に受診ができるような機会があれば、受診率アップにつながるのではないか。また、検診費用にかかる助成も受診率アップにつながるのではないか。

委員：健（検）診を受けたら、次の健（検）診の予約が自動的にできるシステムが受診率向上につながっていると聞いた。

事務局：社会保険加入者の方も含めて実施した「松阪市民の健康づくりに関するアンケート調査」結果によると健（検）診の受診率は80%を超えています。しか

し、国保加入者になると40%。がん検診受診率は企業に勤務の方を含めたアンケート結果では50%前後という現状です。

委員：三重県内でも糖尿病の罹患率の高い地域ということを知っているということでしょうか。

委員：食生活改善推進員の取組みは糖尿病予防、減塩への取組みを行っている。虚血性心疾患、狭心症、心筋梗塞は糖尿病も原因となり、塩分の取り過ぎは慢性腎臓病になり、虚血性心疾患の原因にもなるので、発症率を下げることは塩分の取り過ぎを是正することになり非常に大事なポイントだと思う。

顧問：食事と運動が重要。三重県は、摂取カロリーの割合が高い、運動習慣等も三重県全体で低い。さまざまな統計を見ると、三重県の女性は比較的、健康長寿を保っているとの結果が出ており、全国でも上位になっている。しかし、車で移動し、ほとんど歩かないという地方都市の典型のような状況。野菜を食べる、若い人が特に少ない現状がある。健(検)診受診を促すためには、病気があるとどれだけ損失になるかという、経済的損失を示すのも1つの手法かと思う。

委員：出生率が低くなっているのを感じる。結婚する、しないだけでなく性別役割的な考えや子育てをする環境などもあるのではないかと。安心して子供を産み育てられる環境を大切にしたい。

委員：松阪市は子育てしやすい街なのか。

事務局：子育てランキングでは前は1位をとりました。先日も「職員がすごく優しく、いろんなところで支援してくれる。子育て支援センターが充実し、その他、たくさんの人から支えてもらって子育てができるまちです」というお手紙を市民の方からいただき、大変うれしく思っています。

委員：イメージづくりをしていただくのも大事なかなと思う。

委員：現代の歯科医がすることは治療をすることではなく、虫歯にさせないことだと思っている。

事務局：ご意見、ご提案をありがとうございます。計画に基づいて健康寿命の延伸に向けてさまざまな事業に取り組んでいるところではありますが、みなさま方からのご意見やご提案いただきながら、今後も進めていきたいと思っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

会長：本日、ご欠席の駒田委員から、ご意見をいただいているということですので、事務局からお願いします。

事務局：市民へ提案する際は、「なぜ」という点を考慮して行う。例えば「朝ご飯はなぜ、食べる必要があるのか」といった問いかけをしてはどうか。実際に「バランスよく食べよう」や「何キロカロリー」等の提案は分かりにくいので、実際の量を実測して見せたり、体験させることを取り入れていくと効果的であること、動脈硬化は10代から始まるということから、子どもたちへの

健康づくりや子育て世帯には機会を見つけて、食育の話や健康の話を取り入れていくようにする。食育がうまく展開しているクラスは落ち着いていると言われている。「食事は子育て世代にはとても大切です」との言葉をいただきました。また、企業とタイアップする取組みとして、食事などのチェックシートで見える化をしながら指導する等、提案をいただきました。

会長：ありがとうございました。委員の皆様から、貴重なご意見を賜りまして本当にありがとうございました。健康づくり事業につきましては、各関係機関の連携は言うまでもありません。委員の皆様もそれぞれの分野において健康づくりの推進をお願いしたいと思っております。

ご熱心な審議をいただきまして誠にありがとうございます。

それでは事務局にお返ししたいと思います。

事務局：平岡会長、委員の皆様、ありがとうございました。本日いただきましたご意見を参考にさせていただきながら、今後も進めていきたいと思っておりますので、よろしくご指導ご協力をお願いいたします。

それではこれもちまして、令和6年度松阪市健康づくり推進協議会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

(15時終了)